

科目名	教員名
中国学特殊講義 XIX(言語文化)	郭 偉

免許・課程

資格課程

開講詳細

開講キャンパス	開講時期	曜日	時限	開講学年	単位数
渋谷	集中	スプリングセッション	スプリングセッション	カリキュラムにより異なります	2

講義概要

授業のテーマ

留学の成果を固める。

授業の内容

中国語の話し言葉に関する文章を原文で読み、個性の異なる話し手による会話例を学習し、受講者による応用実践などを通して、その習熟を図る。

到達目標

中国語の話し言葉に関する系統的知識、ないしそれに基づく中～高度な口頭表現力を獲得する。

授業計画

第1回	授業紹介／口語中の轻声化現象 【準備学習 60分】
第2回	口語におけるr化の変音パターン 【準備学習 60分】
第3回	応用実践① 【準備学習 60分】

第 4 回	朗読のアクセント 【準備学習 60 分】
第 5 回	方向補語の発音 【準備学習 60 分】
第 6 回	応用実践② 【準備学習 60 分】
第 7 回	応用実践③ 【準備学習 60 分】
第 8 回	形容詞の重ね方 【準備学習 60 分】
第 9 回	擬声語 【準備学習 60 分】
第 10 回	応用実践④ 【準備学習 60 分】

第 11 回	応用実践⑤ 【準備学習 60 分】
第 12 回	口語における数詞 【準備学習 60 分】
第 13 回	非主述構造の文 【準備学習 60 分】
第 14 回	応用実践⑥ 【準備学習 60 分】
第 15 回	まとめ 【準備学習 60 分】
授業計画 の説明	授業の進みぐあいによって、スケジュールが変更される場合もある。

※履修している学生に対して事前に説明があった上で、変更される場合があります。

授業時間外の学習方法

配布資料を音読し、読めない語句については辞書で調べておく。授業後、同じ資料をもう一度音読し、重要な用語や知識を記憶する。余裕があるなら、関連文献を調べる。また、応用実践で作成した中国語の文を整理し、流暢にプレゼンできるようにする。

受講に関するアドバイス

参加型の授業であるため、出席、予習、課題への取り組みが重要。

成績評価の方法・基準

評価方法	割合	評価基準
授業時試験	50%	授業内容の習得程度と表現能力の達成度
平常点	50%	予習の成果、授業内容の習得程度と表現能力の達成度

※すべての授業に出席することが原則であり、出席自体を加点の対象とすることはできません。

注意事項	平常の学習態度、成果を重視し、授業中の積極性を高く評価する。 欠席五回以上で失格。
------	--

※履修している学生に対して事前に説明があった上で、変更される場合があります。

教科書・参考文献等

教科書

第1回の授業時に指示する。また必要に応じてプリントを配布する。

参考文献

書名	著者名	出版社	備考

参考文献コメント

毎回、必ず、中日／日中辞典を持参すること。電子辞書でも可。参

考になるウェブページ